

# 未来へつなぐ、生月小学校

～151年の歴史を胸に、新たな生月小学校へ～



# ありがとう、根獅子小学校

～地域の愛に包まれた143年～

☎ 学校教育課 ☎22-9212



1\_5年生が披露した劇「きれいな海守んジャー！」  
2\_生月漁港の防波堤に描かれた、6年生の卒業壁画

**忘れられない別れの時間**  
151年続いた生月小学校はこの春、その長い歴史にひとつの節目を迎えました。生月小学校は、明治8年に里小学校として永光寺の一室から始まり、地域に根ざした学校として親しまれてきました。中でも、児童の鼓笛演奏は生月小学校の伝統で、地域行事などでの演奏は多くの住民に愛されてきました。1月29日に行われた閉校記念式典には、児童71人をはじめ、保護者や来賓、地域の皆さんなど約250人が出席。会場には歴代の卒業アルバムや昔の写真も展示され、訪れた人が懐かしそうに



2

見入る姿が見られました。式典の第二部では、各学年ごとに授業で学んだ成果を発表し、会場の雰囲気は一転して明るく活気に満ちました。5年生は、オリジナル劇「きれいな海守んジャー！」を披露し、海岸清掃の体験や漁網リサイクルの調査をもとに、環境を守る大切さを楽しく伝える内容で、会場を大いに盛り上げました。4月から山田小学校と統合し、新たな生月小学校としてスタートしますが、地域とともに築いてきた伝統と学びは、子どもたちを支える大切な力となり、次の学校へと受け継がれていきます。



1\_根獅子小学校での思い出と来年度からの決意を発表する児童たち  
2\_閉校記念碑の除幕式の様子

**別れを惜しんだ閉校記念式典**  
根獅子小学校は、明治15年に紐差小学校根獅子分校として創立されて以来、143年にわたり地域の皆さんに深く愛され、子どもたちの笑顔とともに歩んできましたが、3月をもって、その歴史に幕を下ろしました。地域との交流が盛んで、行事には地域の皆さんが学校を訪れ、児童とともに活動する姿が根獅子小学校の特色となっていました。令和7年12月7日に行われた閉校記念式典には、全校児童13人をはじめ、保護者や来賓、地域の皆さんなど、約200人が出席しました。



2

式典では、全校児童一人ひとりが根獅子小学校での思い出と来年度からの決意を堂々と発表し、これまでの学びを胸に未来へ踏み出す姿が印象的でした。校歌斉唱では、児童の声に地域の皆さんの声を重ね、体育館いっぱい響き渡りました。その歌声は、まるで学校への感謝とこれからの未来への希望を伝えているようでも、会場全体が深い感動に包まれました。閉校を迎えても、143年にわたって育まれてきた思い出と絆は、これからも地域の中で生き続けていきます。

**151年の歩みに感謝**  
3月31日、生月小学校は151年の歴史に幕を閉じました。明治8年に里小学校として開校し、児童数が千人を超えた時期もありましたが、令和7年度の児童数は71人となり、閉校を迎えることとなりました。令和7年度には創立150周年記念事業として幟や記念品の作成、運動会での人文学、記念式典を実施しました。3年間校長として、自然の豊かさや地域・保護者の温かな思い、子どもたちの仲の良さに多くの幸せをいただきました。4月からは新しい「平戸市立生月小学校」が誕生します。生月町唯一の小学校を地域・保護者の皆さん、教職員、子どもたちみんなで作ってほしいと願っています。



おおし しんや 大石 信弥 校長

これまで根獅子小学校を見守り、支えていただいた地域や保護者の皆さんには、今後とも児童の成長を見守り、支えていただきますようお願いいたします。  
この間、地域の豊かな自然を生かした教育、ふるさとを愛する教育など、根獅子魂を育てる地道で力強い教育実践は、児童の確かな力となって引き継がれてきました。教職員と児童との充実したふれあいに加え、地域・保護者の皆さんには、多くの場面でご来校いただき、学校を支えていただきました。



なかしま ゆうじ 中島 祐治 校長

**根獅子魂は永遠に**

3月をもって根獅子小学校は143年の歴史に幕を下ろしました。明治15年、紐差小学校根獅子分校として誕生して以来3、236人もの卒業生を輩出しました。この間、地域の豊かな自然を生かした教育、ふるさとを愛する教育など、根獅子魂を育てる地道で力強い教育実践は、児童の確かな力となって引き継がれてきました。教職員と児童との充実したふれあいに加え、地域・保護者の皆さんには、多くの場面でご来校いただき、学校を支えていただきました。

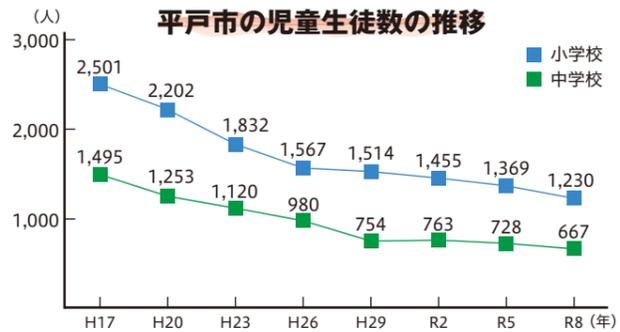
# 子どもたちの未来を見据えた学校再編の歩み

～地域が一体となって進めた適正規模・適正配置への取り組み～

子どもたちが安心して学び、豊かに成長できる環境を守り続けるためには、時代の変化に合わせた学校の姿を考え、ていくことが欠かせません。児童生徒数の減少など、さまざまな現状を踏まえ、未来につながる教育環境を整えるため、平戸市では学校の適正規模・適正配置の実現を目指しています。

## 深刻化する児童生徒数の減少

全国的に少子化が進む中、平戸市もその影響を避けることはできず、児童生徒数は年々減少の一途をたどっています。児童生徒数の減少は、十分な学級編制や教育環境の維持を困難にします。その影響を最も受けるのは子どもたちです。将来を担う子どもたちの立場に立ち、よりよい教育環境をどのように確保していくのかを第一に議論を進める必要があります。



## 学校規模と適正規模の考え方

子どもの人数が少ない学校では、国の基準に基づき、児童生徒数に応じて柔軟に学級編制を行っています。

国の適正規模は、40人学級を基本に小学校12～18学級、中学校6～9学級とされていますが、小規模校では人数が確保できる場合、同学年のみで標準の人数以下の学級を編制します。さらに人数が少ない場合は、複数の学年を1つにまとめる複式学級となります。

## 複式学級などの小規模校のメリット・デメリット

### メリット

- ・きめ細かな指導が可能
- ・子ども主体の授業展開が可能
- ・異学年の縦の交流が生まれる
- ・地域総がかりの関わり

### デメリット

- ・授業に制約が生じる
- ・切磋琢磨しにくい
- ・固まった人間関係に陥りやすい

**学校の適正規模・適正配置の未来像**  
置は、行政上の合理化を目的として、

中部地区(根獅子小学校・紐差小学校)では令和6年6月～令和7年11月までに4回、生月地区(生月小学校・山田小学校)では同期間に8回開催し、議論を深めてきました。こうした協議の積み重ねを経て、今回の統廃合に至りました。

**地区別の検討委員会設置と協議**  
平戸市では「学校の統廃合における平戸市の基本方針」に基づき、子どもたちにとって望ましい学校のあり方を検討するため、適正規模・適正配置検討委員会を設置しています。

今回、この方針に沿って中部地区と生月地区に「適正規模・適正配置検討委員会」を設け、学校関係者、保護者、地域住民、平戸市教育委員会などが参加して協議を重ねました。

3月で閉校した根獅子小学校の児童は紐差小学校へ、また、生月小学校および山田小学校の児童は新しい生月小学校へ通学します。

子どもたちが多くの仲間とともに、楽しく、充実した学校生活を送ることができるように、今後も教育環境の整備に努め、支援してまいります。

的とするものではなく、子どもたちの将来を見据え、より良い教育環境を確保するための取り組みです。学校が地域の文化や交流の中心として果たしてきた役割にも配慮しながら、地域や学校、行政が協働して、持続可能な教育環境を整えていくことが求められています。

さらに、人口減少が進む中で、通学環境の整備や地域コミュニティへの影響を、できる限り抑える工夫も重要です。地域と子どもたちにとって望ましい学校の姿を実現するため、丁寧な議論を重ねながら取り組みを進める必要があります。

# 思い出いっぱい、山田小学校

～151年の学びのバトンを次の時代へ～



**心に刻んだ思い出**  
山田小学校は明治8年に第五学区第四中学校区館小学校として開校し、子どもたちの学びと成長を見守ってきましたが、151年の歩みを終え、閉校となりました。2月22日に行われた閉校記念式典には全校児童29人をはじめ、保護者や来賓、地域の皆さんなど約400人が出席。卒業生を代表し、元長崎県知事で元農林水産大臣の金子原二郎氏、前平戸市長の黒田成彦氏が山田小学校への思いを述べました。続く児童発表では、山田小学校での思い出や4月からの決意が力強く語られました。



た。さらに、地域の出し物で図書ボランティア話・花の皆さんの読み語りや披露されたほか、山田小学校の卒業生で、新・生月小学校の校歌を作詞作曲された真辺雄一朗さんご夫妻のコンサートも行われ、華やかな音色が式典に彩りを添えました。

校訓「誠・愛・勇」は、誠々健やかで豊かな人間性、愛々学校や仲間を大切にすること、勇々正しい判断とやり抜く力を表し、長く受け継がれてきた言葉です。その思いを胸に、151年続いた学びのバトンは、未来を担う子どもたちの手で受け継がれていきます。

- 1\_山田小学校での思い出とこれからの決意を発表した児童たち
- 2\_卒業生の真辺雄一朗さんご夫妻のコンサート



むらかわ しま 校長  
村川 司麻

**未来へ羽ばたけ、山田っ子**  
明治8年の創立から令和まで5つの時代を歩み、8,298人の卒業生を送り出した山田小学校が151年の歴史に幕を閉じました。

本校の教育は、地域の豊かな自然や温かな人々に支えられ、集団登校の見守りや読み語り活動、行事へのボランティアなど、皆さんの深い愛情が、郷土を愛する「山田っ子」を育ててくれました。その中で、教え子が親となり再会できたことは、私にとって大きな喜びです。

山田小学校での思い出は、子どもたちの心に生き続けます。これまでの多大なるご支援に感謝いたしますとともに、山田小学校で培った「誠・愛・勇」の精神を糧に、子どもたちが未来へ力強く羽ばたくことを願っています。